

令和 8 年 2 月 1 8 日

フォーラム「歴史を踏まえてより良い海岸環境と防災施設を探る」 開催のお知らせ

福島大学に事務局のある津波被災地プロジェクトでは、令和 8 年 2 月 23 日に東北学院大学土樋キャンパスにて、フォーラム「歴史を踏まえてより良い海岸環境と防災施設を探る」を開催します。過去、そして現在の海岸環境や防災施設を分析し、現状の評価や今後の方向性を考えます。報道機関のみなさまにおかれましては、事前周知のご協力と当日の取材方よろしくお願いいたします。

福島大学に事務局のある津波被災地プロジェクト（代表：共生システム理工学類 黒沢高秀）では、毎年津波被災地で報告会、シンポジウムやフォーラムを開催しています。

東日本大震災後の復旧・復興事業により、海岸は大きく姿を変えました。しかし歴史を読み解くと、震災以前の景観も防災林の植林をはじめとする人による改変・利用を経て成り立ってきたものであることが分かります。過去、そして現在の海岸環境や防災施設を分析し、現状の評価や今後の方向性を考えます。今年は、以下の内容でフォーラムを開催いたします。

フォーラム「歴史を踏まえてより良い海岸環境と防災施設を探る」

日 時：2026 年 2 月 23 日（月・祝日） 13:00～17:00

会 場：東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館 H303 教室
（宮城県仙台市青葉区片平 2 丁目 1-1）

申 込：事前申込制（当日参加も受け付けます）

主 催：津波被災地プロジェクト

科研費 23H00528「津波被災地の海岸防災施設における環境保全事業の多面的評価」

共 催：科研費 25K04620「復興事業が進む福島県沿岸域の地下水環境の現況把握と持続可能な地下水利用の検討」

科研費 25K03372「『復興する力』を有する持続可能な観光地形成に向けたプロセスの研究」

協 力：カントリーパーク新浜
南蒲生/砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク
仙台湾岸 自然と文化の野外博物館 プロジェクト
せんだい3.11 メモリアル交流館
野蒜塾
貞山・北上・東名運河研究会

【基調講演】

「仙台湾沿岸における植林の開始と進展」

菊池 慶子（東北学院大学東北文化研究所 特別研究員）

【一般公演】

「寛政四年(1792年)に熊本に襲来した十五丈(45m)の津波の検証 ～郷土×科学による地域防災の向上に向けて～」

柳澤 英明（東北学院大・地域総合）

「仙台平野中南部における地下水塩水化研究」

遠藤 綾乃・柴崎 直明（福島大・共生システム理工学類）

「仙台市沿岸域の地中水の水質特性ー地下水観測井および不攪乱ボーリングコアの間隙水の調査結果ー」

藪崎 志穂（地球研）、柴崎 直明（福島大・共生システム理工学類）、大内 啓輔（庄建技術）、橋本 大輝（フタバコンサルタント）

「津波で倒壊したクロマツ林の13年後の自律的な再生状況」

岡 浩平・白鷺 翔真（広島工大・環境）、平吹 喜彦（カントリーパーク新浜・東北学院大）

「東日本大震災復旧事業地の様々な海岸環境における植物の種多様性」

黒沢 高秀（福島大・共生システム理工学類）

総合討論

【これまでの津波被災地プロジェクトによる報告会、フォーラム、シンポジウム等】

- ・ 令和元（2019）年 2 月 21 日（木）
シンポジウム「海辺復興と多重防御 生態系サービス・暮らし・地域づくりを考える」
（東北学院大学ホーイ記念館）

- ・ 令和 2（2020）年 2 月 22 日（土）
シンポジウム「震災被災地の自然・暮らしと復興」（南相馬市博物館）

- ・ 令和 3（2021）年 2 月 24 日（水）
「海岸環境関連グループ合同報告会」（オンライン）

- ・ 令和 4（2022）年 2 月 19 日（土）
シンポジウム「震災被災地の自然・暮らしと復興 II」（南相馬市博物館）

- ・ 令和 5（2023）年 3 月 9 日（木）
シンポジウム「震災被災地の自然・暮らしと復興報告会」（東北学院大学ホーイ記念館）

- ・ 令和 6（2024）年 3 月 29 日（金）
2023 年度報告会「震災被災地の自然・暮らしと復興」（東北大学片平キャンパス流動
ダイナミクス棟）

- ・ 令和 7（2025）年 2 月 24 日（月）
フォーラム「能登半島地震・豪雨災害と東日本大震災自然環境・社会特性を活かした
住民主体の復興・地域づくりを目指して」（東北学院大学ホーイ記念館）

- ・ 令和 8（2026）年 2 月 23 日（月）
フォーラム「歴史を踏まえてより良い海岸環境と防災施設を探る」（東北学院大学ホ
ーイ記念館）

フォーラム 歴史を踏まえて より良い海岸環境と 防災施設を探る

日時：2026年2月23日（月・祝日） 13:00～17:00

会場：東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館H303教室
（宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1）

申込：裏面参照（当日参加も受け付けます）

東日本大震災後の復旧・復興事業により、海岸は大きく姿を変えました。しかし歴史を読み解くと、震災以前の景観も防災林の植林をはじめとする人による改変・利用を経て成り立ってきたものであることが分かります。過去、そして現在の海岸環境や防災施設を分析し、現状の評価や今後の方向性を考えます。

【基調講演】仙台湾沿岸における植林の開始と進展 菊池慶子（東北学院大学東北文化研究所 特別研究員）

元東北学院大学文学部歴史学科教授。専門は日本近世史、ジェンダー史。東北諸藩の海岸林の成り立ちとその実相や、東日本大震災津波被災地における歴史的景観の復元などをテーマに、研究活動と社会活動に取り組んでいる。主な著書に『仙台湾の海岸林と村の暮らし クロマツを植えて災害に備える』（蕃山房、2016年、単著）など。

主催：津波被災地プロジェクト・科研費23H00528「津波被災地の海岸防災施設における環境保全事業の多面的評価」

共催：科研費25K04620「復興事業が進む福島県沿岸域の地下水環境の現況把握と持続可能な地下水利用の検討」
科研費25K03372「『復興する力』を有する持続可能な観光地形成に向けたプロセスの研究」

協力：カントリーパーク新浜 南蒲生/砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク

仙台湾岸 自然と文化の野外博物館 プロジェクト

せんだい3.11メモリアル交流館

野蒜塾 貞山・北上・東名運河研究会

このフォーラムは、主催および共催している文部科学省科学研究費課題の一環として実施しています。

科研費
KAKENHI

2026年2月23日（月）

【フォーラム】

歴史を踏まえてより良い海岸環境と防災施設を探る

日時：2026年2月23日（月・祝日） 13:00～17:00

会場：東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館H303教室
（宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1）

参加申込み方法

■ 申込期日：2月20日（金）

■ 申込先： 下記URL、または右のQRコードから
申し込みフォームをご利用ください。

<https://forms.gle/EEYhfjJadWa17afH6>



プログラム

13:00～13:10 【開会のあいさつ・趣旨説明】 黒沢 高秀

基調講演

13:10～14:15 菊池 慶子(東北学院大学東北文化研究所)：仙台湾沿岸における植林の開始と進展

一般公演

14:15～14:35 **ポスター発表**

14:35～14:50 柳澤 英明（東北学院大・地域総合）：寛政四年(1792年)に熊本に襲来した十五丈(45m)の津波の検証 ～郷土×科学による地域防災の向上に向けて～

14:50～15:05 遠藤 綾乃・柴崎直明（福島大・共生システム理工）：仙台平野中南部における地下水塩水化研究

15:05～15:20 藪崎 志穂（地球研）・柴崎 直明（福島大・共生システム理工）・大内 啓輔（庄建技術）・橋本 大輝（フタバコンサルタンツ）：仙台市沿岸域の地中水の水質特性－地下水観測井および不攪乱ボーリングコアの間隙水の調査結果－

15:20～15:35 岡 浩平・白鷺 翔真（広島工大・環境）・平吹 喜彦（カントリーパーク新浜・東北学院大）：津波で倒壊したクロマツ林の13年後の自律的な再生状況

15:35～15:50 黒沢 高秀（福島大・共生システム理工）：東日本大震災復旧事業地の様々な海岸環境における植物の種多様性

15:50～16:20 **ポスター発表**

16:20～16:50 **総合討論**

16:50～17:00 **閉会の挨拶**